

2 強勢

A 強勢とピッチ

英単語のアクセントは強勢が基礎になっている。ある音に強勢があるというのは、その音が比較的長く、高い音で、大きく発音されるということである。一方日本語は強勢というものを持たず、もっぱら音の高低（ピッチ）のみが基礎になっているため、英語の学習においては強勢の感覚を身につけることが重要である。

B 音節

強勢は音節が持っているが、その中でも母音の部分が担っている。つまり、子音が強勢をうけ母音よりも強く読まれることはない。

(例) bat [bæt] strike [straík]

[参考] 音節とは1つの母音を核として、それに任意の数の子音が合わさった単位である。辞書の見出しとして載っている単語の途中に「・」という印があるが、これが音節の境目を表している。

C 2音節以上の語

音節が2つ以上ある単語の場合、どの音節に強勢があるのかを押さえておくことは重要である。辞書の発音記号で“´”（左下がりの記号）のある部分がある単語の（第一）強勢である。

(例) jacket [dʒækít] combine [kəmbáin]

D 第一強勢と第二強勢

三音節以上の単語の場合、第一強勢の他に第二強勢を持つことがある。これは“˘”（右下下がり）の記号で表される。第二強勢は第一強勢に比べると比較的弱い。

(例) examination [igzæmínéiʃən] oriental [ò:riéntl]

E 文中における強勢

文の中では、全ての単語の強勢が同じ強さで発音されるわけではない。場合に応じて、ある部分の強勢が他よりも相対的に強くなったり弱くなったりする。

(a) 冠詞、助動詞、代名詞、接続詞などの機能語は、特に理由がない限り弱く発音される。(Hの項を参照。)

(b) 疑問文に対する答えの部分など、新しい情報を表す部分は相対的に強く読まれる。

(例) A: What did you buy at the souvenir shop?

B: I bought a **dóll**. (“doll”の強勢が“bought”よりも強い。)

(c) Yes-No 疑問文で疑問の対象になるところは相対的に強く読まれる。

(例) Did you buy a **dóll** at that souvenir shop? (その土産屋で買ったのは人形ですか。)

Did you buy a doll at **thát** souvenir shop? (人形を買ったのはその土産屋ですか。)

(d) 否定文で否定の対象になるところは相対的に強く読まれる。

(例) I didn't buy a **dóll** at that souvenir shop. (その土産屋で買ったのは人形ではない。)

I didn't buy a doll at **thát** souvenir shop. (人形を買ったのはその土産屋ではない。)

[参考] 上の二例の場合、文末のイントネーションが少し上昇調になる。

F 複合語の強勢

同じ単語の組み合わせでも、複合語かそうでないかによって強勢の相対的強さが変わる。

(例)	複合語	句
	a grèen hòuse (温室)	a grèen hóuse (緑色の家)
	an Énglish tèacher (英語の先生)	an Énglish téacher (英国人の先生)
	a smóking car (喫煙車)	a smòking cár (煙を出している車)

[注意] 複合語でも、ついつい後ろの名詞を強く読んでしまう人が多いので、注意してほしい。

G 強勢の移動

二つの単語を一体的に発音する場合、リズムを整えるために本来の強勢の位置が変わることがある。

(例) Jàpanése + fódod → Jápanèse fódod a + Nobél + príze → a Nóbél príze

H 強形と弱形

冠詞、一部の動詞、助動詞、代名詞、接続詞は、強形と弱形という2種類の発音形式を持つ。普通の場合、これらの語には文中で強勢が与えられないため、弱形で発音される。母音の部分が曖昧母音[ə]になる場合が多い。強調したい時などの場合にのみ、強形で発音される。

	<強形>	<弱形>
(1) 冠詞		
a	[ei]	[ə]
an	[æn]	[ən]
the	[ði:]	[ðə] (母音で始まる語の前では[ði])
(2) 動詞、助動詞		
am	[æm]	[əm]
been	[bi:n]	[bin]
can	[kæn]	[kən, kn]
could	[kud]	[kəd]
do	[du:]	[du, də]
have	[hæv]	[həv, v] ([v]は短縮形 “ve”の場合)
shall	[ʃæl]	[ʃəl, ʃl]
should	[ʃud]	[ʃəd, ʃd]
will	[wil]	[wəl, el]
would	[wud]	[wəd, d] ([d]は短縮形 “d”の場合)
(3) 代名詞		
you	[ju:]	[ju, jə]
him	[him]	[im]
her	[hə:r]	[hər, ər]
us	[ʌs]	[əs, s]
them	[ðem]	[ðəm, əm]
your	[juər, jo:r]	[jər]
his	[hiz]	[iz]
their	[ðeər]	[ðər]
(4) 接続詞		
and	[ænd]	[ənd, ən]
as	[æz]	[əz]
than	[ðæn]	[ðən]
that	[ðæt]	[ðət]
(例)	My brother <u>can</u> speak English. [kən]	
	I liked <u>him</u> . [láiktɪm]	
	John <u>and</u> Mary [ən(d)]	

強形が用いられるのは主に次のような場合である。

(i) 対比によって強調する場合

(例) Look at him ([hím])! Not her ([hə:r])!

This is not the ([ði:]) theory, but a ([éi]) theory.

(これは唯一の理論ではなく、理論の一つにすぎない。)

(ii) Yes-No 疑問文の答え

(例) “Can you speak English?” “Yes, I can ([kæn]).”

[参考] これも一種の対比だと思えばよい。否定(“cannot”)ではなく肯定(“can”)であるというように、肯定と否定を対比させているためである。

(iii) 意味を強調したい時

(例) Bring the textbook and ([ænd]) the dictionary.

(テキストと辞書の両方を持ってきて下さい。)